

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.63

配信日：2023年8月8日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

医療タイムス 記事紹介

“ スプリングエフェメラル ”

相談役・理事 北村 豊 先生

当会の相談役・理事 北村豊先生からご提供いただいた記事をご紹介します。

記事の内容につきましては、別紙^{*}(Emailの場合:別添)(Faxの場合:本状含め2枚目)の通りでございます。

※ 別紙 出展元: 医療タイムス 2023年(令和5年)8月1日(火曜日) 発行

事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただいております(施設長より)。従来は、歯科・医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員・関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しく願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合がございます。予めご了承願います。

〒114-0002 東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F

一般社団法人東京形成歯科研究会 事務局

Email: okudera@carrot.ocn.ne.jp

TEL:03-3919-5111/FAX:03-3919-5114

寄稿エッセイ

スプリングエフェメラル

北村 豊



日本語には同意語はないと思うが、この単語が私は好きである。

一般的には厳しい冬を乗り越えて、落葉した森林の日光がまだ十分に届く明るい林床で、春がとても待ち遠しかったかのように、一斉に花を咲かせる植物たち“のことである。

「命」や「春のはかなきもの」、さらには「春の妖精」とも訳されるが、それだけでは、皆さんの脳裡にイメージ

代表的な植物としては、長野では近くの山林でもよく見られるイチリンソウやニリンソウ、フクジュソウ、ムラサキケマンや、ギフチョウ属の吸蜜植物としてもよく知られるカタクリなどがある。

これらの落葉広葉樹林帯に生育する小柄な草本の植物は、早春に花を咲かせ、日光を遮

る木々の葉が大きくなる期間に、林床にまで差し込む太陽光を利用して、光合成を十分に

した後は地上部の葉や茎が枯れても根茎や球根などで翌春までの長い地中での生活を過ごす草花のことである。

これらの植物のライフサイクルは、ふとイソップ物語の「アリとキリギリス」のアリの習性を彷彿とさせる。スプリングエフェメラルとは、そのような植物を意味することが

一般的であるが、春のみ成虫となる、一年性の蝶のこともそのように呼ばれることもある。

誰もが思い浮かべる蝶としては、ギフチョウやヒメギフチョウであり、ほとんどの人には白色に見えることからモンシロチョウと見間違える。ウスバシロチョウ“のこれら三種は全てがアゲハチョウ科に属するのだが、これらの種は蝶類の中でも原始的で古代より生きながらえてきた歴史

をもつため、“生きた化石”とも呼ばれる。私は、これらの「春の妖精」に大自然の中で直接に出会える喜びを毎年、とても心待ちにしている。きつと長野の冬は寒さが厳しく、それに耐えてやってくる春だからなおさらなのだろう。さらには、我が家は“冬は冷房、夏は暖房付き”の住宅であることも春の動植物に出会った時の喜びを増幅してくれているのではないだろうか…。

故郷の奈良で過ごした中学生時代に、ギフチョウの研究で日本学生科学賞に個人部門で入選したこともあり、春の妖精は私を大自然の不思議な世界へと引きずらない、人生をとてても豊かなものにしてくれたきっかけになったともいえる。

スプリングエフェメラルが“死んだ化石”にならないことを願って筆をおくこととする。

(信州口腔外科インプラントセンター所長 上高井郡小布施町)